

別紙様式 3

4 大学連携研究（公募型）支援費に係る研究成果（ホームページ用）

事 項	（所 属）	（職 名）	（氏 名）
共同研究 代表者	京都府立医科大学 麻酔科学教室	准教授	上野 博司
研究組織 の体制	京都府立医科大学麻酔 科学 京都工芸繊維大学・情報 工学・人間科学系 京都工芸繊維大学・応用 生物学系 京都工芸繊維大学・生体 分子機能科学	教授 准教授 准教授 教授	佐和 貞治 福澤 理行 吉田 英樹 亀井 加恵子
研究の名称	学習マネジメントシステムMoodleを用いた共同研究事業におけるオンライン情報交流・発信の環境整備の試み		
研究のキー ワード（注1）	学習マネジメントシステム、eラーニング、Moodle		
研究の概要 （注2）	<p>本邦を含む世界中の教育現場において、すでに副教材の提供や自宅学習などの目的において、世界標準の学習マネジメントシステム(LMS)であるMoodle(ムードル)の導入が進められて広く利用に至っている。京都工芸繊維大学においても、すでに教育現場でMoodleの導入(KIT Moodleシステム (https://moodle.cis.kit.ac.jp))が運用されている。京都府立医科大学においても、令和2年度に有志(京都府立医科大学オンライン学習研究会)によって、kpum.online (https://kpum.online)eラーニングサイトを開講し、教員の希望に応じて、eラーニング授業への試用提供を始めている。京都においては、他に例が少ない京都府立大学、京都工芸繊維大学、京都薬科大学、京都府立医科大学の4大学間の連携事業において、LMSの研究分野での共同運用ができれば、大学院教育、さらには大学間の研究事業の連携などに幅広く、研究に関わる共同化事業の深化に寄与できるものと考えて、共同利用可能なLMSの基盤整備を行った。</p>		

<p>研究の背景</p>	<p>昨今の新型コロナウイルス感染症(COVID19)の蔓延という厳しい社会情勢を受けて、大学を含む教育機関においても、感染を助長する「密閉」「密集」「密接」のいわゆる「三密」状態に適合するような会合等について回避すべき状況となった。研究に関する情報の交換や発信などについてもオンライン化しておくことなどが考えられる代替法である。</p>
<p>研究手法</p>	<p>インターネットサーバ（レンタルサーバ、XSERVER社）を運用して、世界標準のLMSであるMoodleをインストールして、京都府立医科大学、京都府立大学の両方の教師、学生が安全にアクセスを得られる環境を整備した。令和2年度に有志（京都府立医科大学オンライン学習研究会）で、京都府立医科大学の授業について教員の希望に応じて、kpum.online (https://kpum.online)運用を始め、eラーニング授業への試用を行い、セキュアでかつ安定した利用を確認できた。</p>
<p>研究の進捗状況と成果</p>	<p>研究計画は単年度試運転であったが、オンライン授業やウェビナー開催などの幅広い利用を考えて、オンライン会議でポピュラーとなったZoomウェビナーとの年間契約を行ない、令和3年度にも継続してシステムの運用を行えることで、本研究事業による成果の一旦とすることができた。</p>
<p>地域への研究成果の還元状況</p>	<p>今後、令和2年度に構築できたLMS基盤を用いて、今後は、京都工芸繊維大学や、京都府立大学、京都薬科大学との共同研究事業や、研究成果発信等への利用へ繋げていくことができる。</p>
<p>研究成果が4大学連携にもたらす意義</p>	<p>京都工芸繊維大学は、すでにMoodleによるKIT Moodleシステムを運用されており、3大学連携の総合講義における利用に関しては、役割分担等において課題が残されていることも把握でき、今後の大学間での話し合い等で調整が必要であることも把握できた。</p>

<p>研究発表 (注3)</p>	<p>この研究成果の一部は、書籍「Moodle3によるZoom連携eラーニング研修構築-学生・教師・マネージャ・管理者用」 (https://www.amazon.co.jp/Moodle3によるZoom連携eラーニング研修構築-学生・教師・マネージャ・管理者用-佐和貞治-ebook/dp/B08X6QW78K/) (佐和貞治著, エムセイフ出版, ISBN: 978-4-9912034-0-4) として電子出版された。 佐和貞治、中村猛、糸数龍哉、杉本みなみ、内山裕美、田中真紀、中林佳代、山口(中上)悦子. Moodle を用いた医療安全研修会サイト mSafe.online の構築と運用 -新型コロナウイルス感染症(COVID-19)パンデミック下における医療安全研修の在り方-. 医療と安全 12:24-34, 2020.</p>
----------------------	---

注1 「研究のキーワード」欄には、ホームページ閲覧者が、研究内容のイメージをつかめるように、キーワードとなる用語を3個から5個程度、記述すること。

注2 「研究の概要」欄には、ホームページ閲覧者の理解の助けとなるように、写真、表、グラフ、図などを用いて、作成すること。

注3 「研究発表」欄には、論文、学会発表、ニュース・リリース等について記述すること。

注4 研究成果が「知的財産」の発明に該当する場合は、ホームページでの公表により、新規性の喪失となるため注意すること。

注5 本書は、A4サイズ3ページ以内とすること。